

**避難所対策の強化を****雪田 きよみ**

**問** 1995年の阪神淡路大震災での災害関連死者数は約5千人。避難所生活の厳しさが原因の事例が多い。2016年の熊本地震では災害関連死者数が直接死の4倍に上り、避難所環境の改善が求められている。段ボールベッドが重要視されている。市は今年2月17日現在段ボールベッド38、簡易ベッド745個を備蓄。2019年10月の台風19号での市内の避難者は約800人。さらに大きな災害の際、対応は可能か。

**答** 令和2年度にコロナ対策臨時交付金を活用し、745台の簡易ベッド等を購入。世帯ごとにパーティションに区切られた中で過ごすことを基本に、1世帯に1台のベッドを配布する。さらに大きな災害時には、高齢者など要配慮者に優先的にベッドを配布する。長期化した場合には国や県等の関係機関や、災害時応援協定を締結する様々な民間企業等から調達に努める。

**問** 段ボールベッドは安価で大量生産が可能。原材料は古紙。暖かく、私物や支援物資の整理にも使える。市でも整備してほしい。

**答** 段ボールベッドは国も運送業者や引っ越し業者と提携。国に要請すれば速やかに届く。

**令和5年度のコロナ対策とアフターコロナ****稲垣 茂行**

**問** 市内感染状況は。

**答** 正確な陽性者数は不明だが、県が発表した参考値では、令和5年2月の市内新規感染者数は216人と減少傾向にある。

**問** 令和5年度ワクチン接種計画の具体的内容。対象者・時期・方法等について。

**答** 現行の特例臨時接種を維持し、5月から8月に高齢者・基礎疾患のある方及び医療従事者等、重症化リスクの高い方に接種。9月から12月は全世代を対象に行う。これまで同様、医師会との連携のもと集団接種を中心に実施・予約体制を整え対象者へ接種券を発送し、希望者が円滑に受けられるよう準備していく。会場は、中央公民館と保健センターを予定。

**問** 今後の感染対策とアフターコロナは。

**答** 3月13日以降、マスク着用は個人の判断とされたことを踏まえ、原則として来庁者へのマスク着用は求めず、職員も任意とする。ただし、コロナ感染症が2類相当であることから、職員は窓口対応時や公立保育所など子どもと直接的な接触がある場所では着用とする。5類へ引き下げ後は、見直しも。

**用排水路整備事業の整備計画の提示を****飯島 正義**

**問** ①令和3年6月の一般質問の答弁では「しんぎぼりの整備の優先は7つの自治会と農事組合長で決めている」と述べています。その後の計画を伺います。②昭和55年～令和4年までの用排水路等の請願件数と処理状況をみると、整備完了は一つもありません。緊急を要する箇所、新年度以降の計画について伺います。

**答** ①「優先整備箇所480mのうち、令和4年度末までに367m。令和5年度末までに427mの整備完了に向けて進めています。残りの箇所は、地域の方と相談しながら決定していきます。②今年度はしんぎぼりと下八間堀の改修。修繕と補修の工事を2箇所。用排水路の維持管理の修繕として3箇所を早急に実施していきます。

**◆公共施設のバリアフリー対応を**

**問** 市役所の多目的トイレは車いす対応、オストメイト対応の他ベッドも設置されています。おあしす内トイレにもベッドの設置を求めます。

**答** おあしすの多目的トイレは、スペースの確保と設置場所の検討が必要になるため、利用者ニーズの把握に努めていきます。

**ヤングケアラーの早期実態調査と支援策の構築を****吉川 敏幸**

**問** ヤングケアラーに関して、欠席・遅刻など学校生活に大きな影響を受けているという結果が出ている。早急に実態調査と支援策を構築すべきと考えるが見解は。

**答** 県内25団体がすでに調査を終えている。それらを参考にしながら、できるだけ早く実施できるよう努めてまいります。

**問** 国では、今年度から実態調査や研修等を実施する自治体に対して財政支援を行うヤングケアラー支援体制強化事業を始めており、令和5年度の国負担は1/2から2/3に拡充している。活用する考えは。

**答** 新年度の予算で実態調査や研修等の予算は計上してないが、今後、この辺の動きを進めていくので、活用できる財源があるのであれば、最大限活用してまいります。

**問** ヤングケアラーの6割は誰にも相談していない。制度や情報に触れる機会を増やすことや声を上げやすい環境の整備が必要なのは。

**答** 子どもたちに必要な情報を届け、声をあげやすい環境の整備をしていく。同時に、地域の方々に認識を高めてもらう情報提供に努める。